

4 環境保全施策支援事業

(1) 環境関連情報の収集・管理

ア「環日本海環境白書 2003」の概要版（英語）の発行

(ア) 背景

環日本海地域の環境保全に関する現状を総合的・客観的に理解し表現すること、さらに、この地域の海洋環境保全について先導的な施策を生み出していくことを願って、2003年3月に当センターとして初めて発行した「環日本海環境白書 2003」の概要版（英語）を新たに発行した。

(イ) 概要

- a サイズ A4版（一部4色カラー）
- b ページ数 38ページ
- c 内容

・第Ⅰ章 日本海という海

日本海の海洋科学に関する知見の概要及び海洋環境科学としての特性について概説。

・第Ⅱ章 日本海と人のつながり

環日本海地域の人々の生活や文化が海とどのように関わっているかを概説。

特に古くから日本海を介して行われてきた交流と沿岸地域で営まれている人々の生活の一端を述べ、海と人との緊密なつながりの様子を概説。

・第Ⅲ章 環日本海地域の環境とその保全

海洋環境に関する数値データや環日本海地域各国（日本、中国、韓国、ロシア）の環境行政についての情報等を取りまとめるとともに、日本を含め各国間の環境交流についても概説。

(2) 環境技術者の研修

ア 自治体職員協力交流研修員の受入

平成8年度に総務省と(財)自治体国際化協会(CLAIR)が共同で支援する「自治体職員協力交流事業」が創設され、海外の地方自治体の職員を日本の地方自治体が受入れ、その行政ノウハウ、技術等を研修するとともに地方自治体の国際化施策への協力を通じて地域の国際化を推進することを目的として実施されている。富山県では、国際協力を推進するため、この事業を積極的に活用しており、当センターはその研修員の受入業務を担当している。

(ア) 研修員

大韓民国江原道江陵市環境管理課

職員 李 姫暎(イ・ジョンギョン)

(イ) 研修期間

2003年7月1日～2004年3月19日

(ウ) 研修内容

- a 富山県の環境行政について
 - ・環境行政部門での研修及び実習
 - ・県内環境関連施設の視察
- b 国際協力について
 - ・NEAR環境分科委員会への参加
 - ・海辺の漂着物調査検討会への参加
- c 県外研修
 - ・木場瀉水と緑の触れ合いパークの視察
 - ・第3回浜名湖浄化技術研究会に出席及び浄化技術施設の視察
 - ・宍道湖の再自然化現場の視察
 - ・エメックス国際センター尼崎実験施設の視察
 - ・琵琶湖・淀川の水質浄化実験センターの視察

イ 国際協力事業団研修員の受け入れ

富山県は、友好提携先である中国遼寧省と1998年度から遼河の水質改善調査の共同研究を行っている。その一環として、当センターでは1999年度から国際協力事業団(JICA)の研修員受け入れ事業の制度を活用し、毎年、遼寧省の研究職員2名の研修を受け入れている。これは、水質調査を行う際の研究職員の技術向上及び調査研究に係わる測定技術の向上を図ることを目的として、約1ヶ月半にわたり富山県環境科学センターを中心に研修を実施するものである。

2003年度は、次のとおり研修を実施した。

(ア) 研修員

- ・遼寧省環境監測センター
 工程師 張 青新
- ・遼寧省環境監測センター
 工程師 呂 曉潔

(イ) 研修期間

2003年10月27日～12月12日

(ウ) 研修内容

- a 技術研修
 - ・水質汚染物質のモニタリング技術
 - ・大気汚染物質のモニタリング技術
 - ・土壌中の汚染物質のモニタリング技術
 - ・水質機器分析技術
 - ・環境測定データの処理及び評価方法
- b 県外研修

- ・独立行政法人国立環境研究所
- ・財団法人日本環境衛生センター 酸性雨研究センター
- ・東京都環境科学研究所

(3) 普及啓発事業

(財)環日本海環境協力センターの活動状況を次の方法により発信し、提供した。

ア 機関誌「ニュースレター NPEC」の発行

- ・ No. 6 2003年9月発行
- ・ NO. 7 2004年3月発行

イ 「年報」の発行

- ・ 2003年版 2003年10月発行

ウ ホームページ(<http://www.npec.or.jp>)による情報の提供

- ・ 掲載内容の随時更新

エ 北東アジア地域環境用語辞書の公開

北東アジア地域（日本、中国、韓国、モンゴル、ロシア）の諸国間において、環境情報の交換・共有化を促進するため、5か国語（英語、日本語、中国語、韓国語、ロシア語）からなる環境用語辞書を作成し、インターネット上で公開するとともに、国内外の専門家の協力を得て、用語の追加・修正を行い内容の充実を図った。

(4) 国際環境協力推進モデル事業

本事業は、環境省委託の「地方公共団体・NGO等の連携による国際環境協力推進支援事業」の一環として実施するものであり、環境省が具体的な国際環境協力事例に基づいて、手法やノウハウを抽出し、「手引き書（ガイドブック）」を作成するための基礎資料を得ることを目的としている。

そこで、「北東アジア地域国際環境シンポジウム」を開催し、地方自治体レベルの環境保全対策や国際環境協力に関するノウハウや技術等の情報を交換し、環境保全のための総合的な連携協力の推進を図った。

(ア) 開催日 2003年11月4日～6日

(イ) 場 所 ロシア連邦ハバロフスク地方ハバロフスク市

(ウ) 主 催 日 本：2003年北東アジア地域環境協力推進協議会（北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の8府県で構成）

ロシア：ハバロフスク地方政府

(エ) 参加者（約100名）

ロシア：ロシア連邦政府、ハバロフスク地方をはじめとした極東ロシア自治体6自治体の環境担当者等

日 本：2003年北東アジア地域環境協力推進協議会

中 国：黒龍江省

韓 国：忠清南道、江原道

モンゴル：中央県

(オ) 会議内容

a 11月4日（火）現地視察

ハバロフスク市下水処理場、ロシア連邦科学アカデミーハバロフスク支部水質・環境問題研究所、構造地質・地球物理学研究所、極東水文気象観測局ハバロフスク支部

b 11月5日（水）シンポジウム

・ 開会の挨拶

ハバロフスク地方：産業・交通・通信第一副知事
ズラジェフスキー S. A.

日 本：2003年北東アジア地域環境協力推進協議会
会長 福永 憲二

・ 基調講演

ロシア：ハバロフスク地方政府天然資源省大臣
ポチュレーヴィン G. E.

日 本：国立環境研究所総合研究官 村上 正吾

・ 事例報告

日 本：富山県環境科学センター主幹研究員
新村 行雄

韓 国：忠清南道福祉環境局環境管理課係長
李 惠聖

モンゴル：中央県知事公室水質管理・水質資源課係長
エルデネバヤル スヴザン
ダンザン

中 国：黒龍江省環境保護局汚染制御処長
劉 森

ロシア：極東地域間水文気象観測・環境モニタリング管理局長
ガヴリーロフ A. V.

・ 総合討論

c 11月6日（木）水質調査・分析に関する環境技術交流会

・ ロシア国内自治体のアムール川に関する事例報告

ハバロフスク地方：ロシア科学アカデミーハバロフスク支部水質・環境問題研究所室長

コンドラーチエヴァ L. M.

ユダヤ自治州：ロシア科学アカデミー地域問題総合分析研究所室長

コガン R. M.

チタ州：チタ州副知事補佐官

ヴィシニャコフ E. V.

・質疑応答・アピール文の採択

